

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(小学校用)

都道府県名	福島県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	福島市立森合小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	3	4	3	3	0	22	30
児童数	130	102	106	127	115	102	0	682	

研究の概要

1. 研究主題

「確かな学力」を育てるとともに、学ぶ「おもしろさ・楽しさ」を実感させる

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1～6年生国語科・1～6年生算数科
 (すべての子どもの学力を保証することを目指すとともに、すべての教員の指導力を高めることをねらう。)
 (他の教科・領域に比べ、客観的なデータに基づいて研究の成果や課題を把握しやすい。)

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 国語科・算数科における「確かな学力」の育成</p> <p>研究内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 個と集団に応じた指導体制の確立 ・高学年における一部教科担任制の導入 ・低、中学年における交換授業の試行導入 ・モジュールタイムの効果的な運用 ・少人数指導に向けた学習集団編成による指導の工夫 ・T T方式による指導の工夫 ・弾力的な指導計画と、ゆとりある単元指導計画の作成 <p>子どもの学力を保証する教師の資質・能力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師の一人一人が抱える課題の明確化 ・個と集団に応じた学習指導法、指導を支える教育技術の共有財産化 <p>指導と評価の一体化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークテスト、ドリル選定基準の明確化 ・評価規準(基準)の作成 ・絶対評価導入に伴う評価技法の開発 ・保護者と連携を密にした通知表(成績通知の機会)の工夫 ・2つの学力テスト(NRT、CRT)の実施と活用
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 国語科・算数科における「確かな学力」の育成</p> <p>「年度テーマ」については、より蓄積した研究を推進するため、平成14年度のテーマを3年間継続することにした。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>できないことができるようになり、分からないことが分かるようになり、「国語や算数の学習っておもしろくて楽しいね」と、子ども一人一人が実感できる事実を、教師一人一人の課題を解決していく中で創り出してきた</p>
--------	--

めに、帰納的な研究システムをさらに強化した。

指導体制企画チーム

- 個と集団に応じた指導体制の確立
- ・モジュールタイムの効果的な運用
 - ・高学年における一部教科担任制の導入
 - ・T T、少人数指導の工夫（補充的・発展的な指導を含む）
 - ・家庭学習（ドリル等）の指導の工夫

研修企画チーム

- 子どもの学力を保证する教師の資質・能力の向上
- ・学びの集団の組織化と運営
 - ・授業研修会の企画、運営
 - ・オープン研修会の企画、運営
 - ・全体オープン研修会の企画、運営

評価企画チーム

- 指導と評価の一体化
- ・通知表の改訂
 - ・教育相談の基本方針の作成
 - ・ワークテスト、ドリル選定基準の明確化
 - ・評価規準の作成
 - ・達成基準の考え方の明確化及び評価技法の開発
 - ・2つの学力テスト（NRT、CRT）の実施

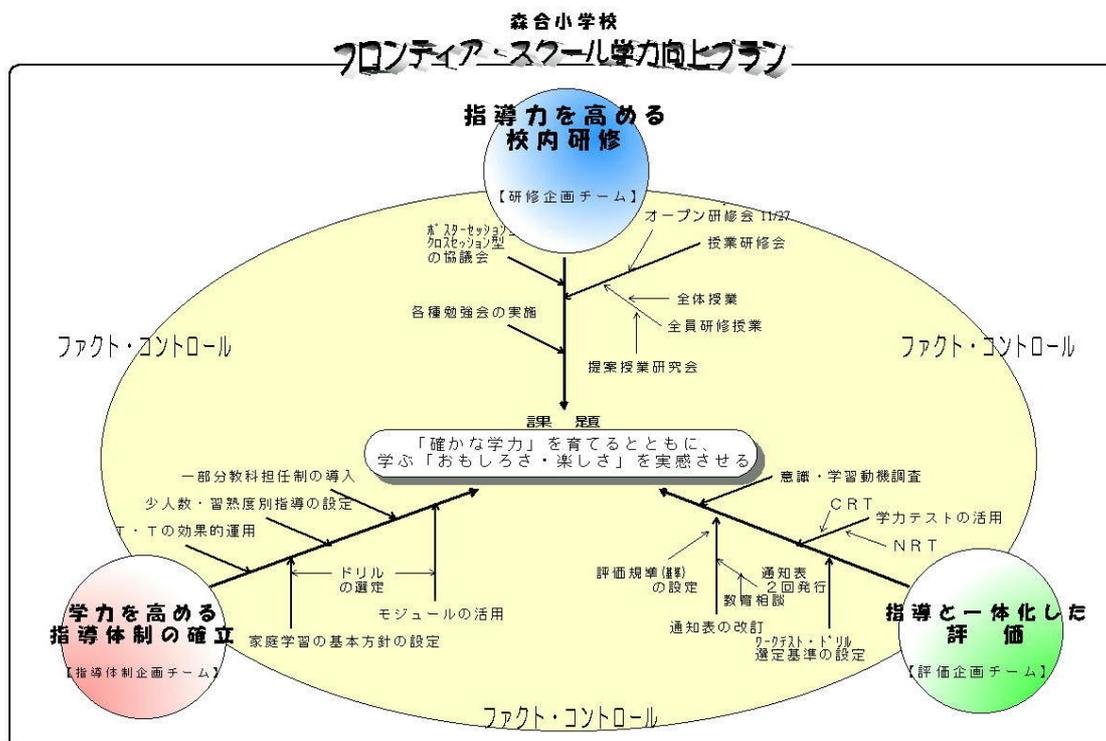
平成
16
年度

テーマ 国語科・算数科における「確かな学力」の育成

研究の内容・方法

～平成15年度の「成果・課題」をもとに現在検討中～

(3) 研究推進体制



前年度までの から までの「3つの柱」にかかわる取り組みの企画・運営を、
 研修企画チーム
 指導体制企画チーム
 評価企画チーム
 それぞれのチームリーダーに委ね、組織の「FF化」(フラット&フレキシブル)を図った。

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

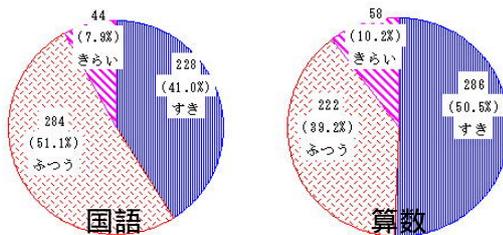
年度初めに実施した学力検査及び意識・学習動機調査の集計結果（SS）は以下の通り。

データ 1（学力テスト - NRT） H15.4.17実施

	2年	3年	4年	5年	6年	全体
国語	52.4	54.2	54.6	56.6	56.4	SS 54.8 SD 8.9
算数	54.1	54.6	53.0	54.7	55.7	SS 54.3 SD 9.0

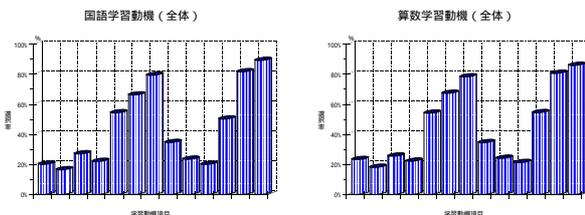
- ・ 国語は、すべての学年で数値的に向上した。また、学年が進むにつれて全国と比較しての向上の度合いは高くなっていく傾向にある。
- ・ 算数は、昨年度と同等の結果である。

データ 2（意識調査）



- ・ 国語の学習に対する意識は、2年生を除き、差はほとんど認められない。昨年度と比較しても、変化は認められない。
- ・ 算数の学習に対する意識は、昨年度と比較し、「好き」と答えた子どもが3.8ポイント増加した。しかし、学年が進むにつれて、「好き」と答える子どもの割合が小さくなっていく。

データ 3（学習動機調査）



- ・ 学習が「好き」「嫌い」と答える児童の学習動機を比較すると、顕著に違うのが「おもしろくて楽しいから勉強する」である。
- ・ しかし、昨年度と比較しても「好き」の支持率の向上は、各学年とも認められなかった。

2. 今後の課題

- ・ 数値上の学力は高まっているものの、学ぶ「おもしろさ・楽しさ」を実感している子どもたちを増やすことは結果としてできなかった。普段の授業をどう組織するか研修を深めていくことは当然だが、繰り返し学習の在り方、家庭学習の指導の在り方、保護者との連携の在り方等、多面的な視点から学習指導について研修を深めていかなければならない。
- ・ 算数が「好き」と答えているにもかかわらず、「嫌い」を選択していない子どもの存在が気になってきた。全体としての傾向をとらえることも大切だが、加えて、子ども一人一人の学習動機の変化についても分析的にとらえ、今後の指導の在り方についての方向を、来年度当初には明確にしたい。
- ・ フロンティア事業の推進にあたって、基本方針や企画の立案から決定、推進までのプロセスが複雑化していることは否めない。よりフレキシブルに対応できるようにするため、組織の在り方（システム）についての再検討が必要である。教師一人一人の個性、アイデアがさらに生かされるような組織でありたい。

学力等把握のための学校としての取組

- 「確かな学力」の評価
・学力検査の実施（NRT 4月、CRT 1月）
「学ぶおもしろさ・楽しさ」の評価
・意識調査、学習動機調査の実施（年1回 1月）

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・オープン研修会
日 時：平成15年11月27日（木）9：30～16：00
場 所：森合小学校
テーマ：「確かな学力」を育てると共に、
学ぶ「おもしろさ・楽しさ」を実感させる
対 象：県内外の教師（210名の参加者）
内 容：国語科（3学級）・算数科（6学級）の授業公開
情報交換会（情報交換と6名の助言者によるご指導）
3つの企画チームリーダーによるポスターセッション
宮城教育大学教授 田端輝彦先生の授業公開及び講演

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無